

2008/9/26 シンポジウム 質問内容

<小川先生>

- 求人・職業情報など個人情報に関する内容を公開・非公開の基準はあるのでしょうか？（RMP システムにおいて RMP システムの構築期間・費用について

回答>現在のシステムは、本人と管理者のみしか情報閲覧できないようになっております。RMP に蓄積された情報を加工した形で表示するのみです。個人の特定はできないようになっています。

RMP システムは、2006 年から構築を始め、2006 年 10 月から試験運用を開始しました。

システムの費用は、エミットジャパン（株）と共同研究として行っているため、実費のみです。

- 卒業生がデータを入力する時のインセンティブをどのように考えていますか？転職サポートなどはその一つと考えてよろしいでしょうか？

回答>卒業生のインセンティブは、転職・再就職・学び直しのサポートと考えております。卒業生の中には、本システムの主旨に賛同し、後輩に役に立ちたいという意識からデータ提供をして下さる方もいらっしゃいます。

- 私の大学にも理学部があるのですが、特にキャリア展望についてのんびりしたり、具体的な希望がない学生が見受けられます。意識の低い、自分がこうなりたいと思うモデルがない学生もいると思いますが、これに踏まえてそういう学生にはどのようにポートフォリオを活用されていますか？

回答>将来の展望が見えない学生でも、ロールモデル型 e ポートフォリオ（RMP）では、自分の履歴・情報を入力することによって得られる診断（業種・職種適正診断や自分の成長度）があるので、最小限は活用してくれています。これらの診断情報が、将来を考えるきっかけになってほしいと期待しています。

- ワークバランスセミナーに触れておられたが、RMP にはそれに関する情報としてはどのようなものを取り込んでいるのでしょうか？

回答>RMP のポートフォリオの部分には、出産、職歴などを入力する欄もあり、これらの情報から卒業生がどのようにワークライフバランスを成り立たせているのかを参考にすることができるようになっています。さらに、RMP 内の SNS では、ワークライフバランスに関する情報交換の場も設けております。

また、本システムとは別に、自分の望みを 10 個挙げ（wish10）、この項目からワークライフバランスを考えるきっかけを与えるシステムも構築しています。

- データ更新は学生、卒業生、管理者のみと理解していいか？閲覧は他社のものを、どの範囲まで見られるのか？

回答>現在のところ、データ更新は、学生、卒業生、管理者のみです。他者のデータは、業種・職種別や企業別に分類され、加工したものしか見られないようになっています。

- 理学部のみか？大学全体として取組んでいるのでしょうか？個性を伸ばす仕組みはあるか？

回答>理学部を中心に行っておりますが、希望者があれば、他学部の学生も登録してもらっています。

- 全学部で同様の取り組みをしているのですか？理学部と違って文学部だとどのようなになるのかピンとこないのですが…

回答>現在のところ、理学部を中心に行っていますが、今回提示している 6 つの能力は、学部を問わず活用できるものだと考えております。

- 6つの能力の基盤（元ネタ）についてもう少し教えてください。卒業生の6つの能力などのデータはないと思いますが、そこはどうやって比較していますか？推奨科目を選択する方法（アルゴリズムやその基礎データの収集法）をもう少し教えてください。

回答＞6つの能力の詳細や推奨科目のアルゴリズムなどは、以下の論文を参照して頂ければと存じます。

小川賀代他「実践力重視の理系人材育成を目指したロールモデル型eポートフォリオの活用」日本教育工学会論文誌, 3, pp51-59.

Kayo Ogawa et al. "Development of Role Model Based e-Portfolio for Multi-career path support", ICCE2007 SUPPORTING LEARNING FLOW THROUGH INTEGRATIVE TECHNOLOGIES: pp.287-290

- 全学生に占めるポートフォリオ利用者の割合は？それを向上させるための工夫は？

回答＞登録者は、私が所属している理学部数物科学科ではほぼ全員ですが、利用度合いは、各自それぞれです。他学科、他学部に関しては、サイエンスカフェや就職相談会のときに登録する機会を設けているので、今後、積極的に登録機会を設けていきたいと思っています。また、ポートフォリオを利用することのメリットも宣伝していきたいと思っています。

<全員（小川先生）>

- 教員がeポートフォリオ（コンピューター）を苦手意識なく利用できているのか？

回答＞コンピュータのリテラシーについては、個人差はあると思います。

- e-ラーニングの参加率はどのくらいですか？（本学ではWEBメールの利用率の低さに悩んでおります）

回答＞本学は、eラーニングによる単位取得、他大学とeラーニングコンテンツによる単位互換を行っているため、個人差はあるものの、何らかの形で携わっているのではないかと思います。

生涯学習センターなどでの講演も、eラーニングコンテンツとして全国配信しております。

- 教員からの強制がない中で、学生はどれくらい自発的に利用していますか？

回答＞自発的に利用している学生は、あまり多くないと思います。こちらから、きっかけを与えて活用しているのが現状だと思います。

- 「学生の自分なり」を何を基準にどのように定量化し、評価するのか？教員自身の評価は？

回答＞本学では、ロールモデルを基準にして評価を行っています。FD用のポートフォリオ活用は未だ行っておりません。

<梅津先生>

- 講演の中で触れられておりました「e」である故に難しいという点について少し具体的にお聞かせ願えれば幸いです。

回答：利用者の側に、「難しそうだ」「どう使えばいいか分からない」等、コンピュータを使うことへの心理的な壁の高さがあります。そのことを指して「e」であるが故に難しい、ということです。教職員や学生がツールとしてのPCや「知の総合化ノート」（わいわいレコーダー）の活用慣れることに時間がかかるという課題があります。もともと、「知の総合化ノート」は、紙ベースでの実践が始まりでした。紙での表現であるがゆえに、学生が

技能の制約を受けることなく、比較的自由に自己の「教育実践力」についての理解を表現することができていたところがあります。PC上での構造化や図解が、技能の限界から難しくなり、自分の考えを表しにくくなるという矛盾も抱えています。

- 知の総合化ノートを評価し、学生の学習成果を測っていくとなると、評価スタンダードのさらなる開発とその利用が必要になってくると思いますが、現段階でそのような「学生の評価」という視点からのスタンダード作りはどの程度、考えていらっしゃるのでしょうか？

回答：学生の評価の観点からは、スタンダード（これは、いわゆる「評価基準」です）にもとづく、作業課題を設定し、その作業課題の達成度を評価する「評価基準」を設定していく必要があります。本学では、学部生・院生の教員養成教育とともに、教員10年次研修も視野に入れながら、授業力と生徒指導力、協働力の3つの能力について、スタンダード、作業課題、評価基準の開発に着手しています。

- お話の中で「自分なりの考えで」「自分なりの言葉で…」があったと思います。こうすると学生の中への知識の定着も高まり行動として再現できると思いますが、「待ち時間」が増え従来考えていた内容を減らす必要があると思います。資格取得と結びつけると、そうして実践が厳しいこともあると思うのですが、学内の議論でもこれに関する話が出ていたらどのように議論されたのか（可能でしたら）教えてください。

回答：本学の特色GPの基本コンセプトは、「教育実践力自己開発・評価システムの構築」ですから、学生に教育実践について考える場、自ら実践する場を計画的に与え、自己省察し、それを「知の総合化ノート」によりため表現していく、そして蓄積された記録をさらに自己の教育実践力開発に活用するという取り組みは、時間がかかってもねばり強く続けていかねばならないと考えています。しかし一方で、学生の培った教育実践力、なかんずく授業力についての他者評価（第三者評価）の仕組みを整備しなければなりません。本学では、特色GPの考え方・システムを基盤に、現在「教育実践演習（仮称）」のパイロットプランを立ち上げ、平成21年度から実施の予定です。

- お話の端々にテキストだけではレベルが低いような感じの事を言われていたが、図示するとかかっよく見せる事にはeポートフォリオの意義があるのだろうか？入力しやすい方法でどんどん構築し、時系列で見直すこととコンテンツが重要ではないのでしょうか？活用しやすいことの方が重要ではないのでしょうか？少し発言が気になりました。

回答：ご指摘をしっかりとふまえたいと思います。ここで「テキストだけでは」と述べた場合の「テキスト」とは、テキストエディタで一次的に記述したような文字情報を想定しています。私自身、学生が自分なりの言葉と表現方法で、自己の教育実践に関するeポートフォリオを実践していただければよいと考えています。

- 最後に少しふれられましたが、大学教員自身の授業実践力を鍛える仕組みはあるのでしょうか？

回答：評価スタンダードをはじめとする特色GPのコンセプト・内容に関する全学説明会は適宜行っています。また、GPの方法を直接ふまえたものにはなっていませんが、毎年10月にFDの一環として、公開授業研究会と授業力向上に関するワークショップを、教育委員会関係者、学生の参加を得て開いています。

- 付属学校の協力が必須かと思いますが…何回も実習をお願いすることに対して付属校からの苦情は多いですか？すなわち付属校の教育が乱されるというような点です。

回答：鳴門教育大学の附属校園では、教育実習を附属校園の果たすべき役割の一つとして位置づけておりますので、実習を実施することに対して苦情を言われることは一切ありません。映像データベース用の映像を撮影することに関しても、大学生の教育の一環としてご理解・ご協力いただいております。

一方で、大学のカリキュラム改革、教育実習の充実等で、附属校園の先生方におかけする負担は確実に増えていると感じています。そのため、評価スタンダードの活用をはじめとする特色GPのプログラムを教育実習に制度的に組み込むということはしていません。附属校園の教育実習指導の裁量を確保するためです。そのかわりに、附属校園の先生方に、大学のコア科目を協働で担当していただく際には、特色GPの目的・内容・方法を理解していただき、授業にあたっていただくようにしています。

- 授業実践映像データベースでのプライバシー処理はどのように行われているのですが？また、授業中で使ったものの著作権処理はどのように行われるのですか？

回答：肖像権の処理に関しては、以下の4点のように対応しています。

- 1) 映像を撮影する際、園児・児童・生徒は、個人が特定されないように留意しています。
- 2) 授業を実施している実習生には、映像を Web に掲載する旨について承諾書を提出してもらっています。
- 3) 映像データベースの閲覧にはユーザ登録が必要であり、現在は、学内の教員・学生のみが閲覧できるようになっています。また、サーバにアクセス制限をかけており、学内のネットワークに接続した PC からしか閲覧できないようにしています。
- 4) 園児・児童・生徒個人が特定されるような映像は、映像処理を施したり、その映像を Web 上に掲載しないようにしております。

授業中で使ったものの著作権処理につきましては、現在方法を検討中ですが、著作権を侵害と思われる映像に関しては掲載しないなど、一定の対策が必要であると認識しています。

<全員（梅津先生）>

- 教員が e ポートフォリオ（コンピューター）を苦手意識なく利用できているのか？

回答：必ずしもそうではありません。苦手意識を持っている教員はおります。ただし、GP の予算で事務補佐等をしてくれる人をお願いし、その方々に利用者の支援をお願いすることで対応しています。

- e-ラーニングの参加率はどのくらいですか？（本学では WEB メールの利用率の低さに悩んでおります）

回答：これらのシステムは、現在普及期にあります。大学のカリキュラムと関連付けて、学生がシステムを利用する（せざるをえない）環境を整えていくことが大切であると考えております。

- 教員からの強制がない中で、学生はどれくらい自発的に利用していますか？

回答：これらのシステムは、現在普及期にあるため、学生が「自発的に」使う、というレベルには未だ達しておりません。知の総合化ノートおよび映像データベースについて、現在は、講義内でシステムを使って行う課題を出す、という形で「強制的に」利用してもらっています。ただ、純粋な意味で学生が「自発的に」これらのシステムを使うことはほとんどないと思われます。大学のカリキュラムと関連付けて、広い意味で「強制的に」、同時に広い意味で「自発的に」学生がシステムを利用する（せざるをえない）環境を整えていくことが大切であると考えております。

- 「学生の自分なり」を何を基準にどのように定量化し、評価するのか？教員自身の評価は？

回答：本学では、学部生・院生の教員養成教育とともに、教員 10 年次研修も視野に入れながら、授業力と生徒指導力、協働力の 3 つの能力について、スタンダード、作業課題、評価基準の開発に着手しています。そして、特色 GP の考え方・システムを基盤に、現在「教育実践演習（仮称）」のパイロットプランを立ち上げ、平成 21 年度から実施の予定です。

<岩井先生>

- 「KUIS ベンチマークシートのどれを伸ばすかを各講義でいくつか明示しておられるということ」でしょうか？

回答：各科目で伸ばしたいベンチマーク項目を 2～3 選び、シラバスに明記するようにしています。また、シラバスには、「学習目標・及び目標とするベンチマーク」という項目があります。

- 記事の共有化のコントロールは入力した学生自身もしくは教員、どなたがするのでしょうか？

回答：記事の共有するかについては、記事を投稿した本人が選択します。

- 正課外活動（スポーツ・文化）はどのように組み込まれている？

回答：授業等に科目についての成果だけではなく、正課外活動の成果についても、ポートフォリオに蓄積するように指導しています。

- 学生には書かせることも大事、紙ベースのポートフォリオも必要では？

回答：ご指摘の通り、自分の手を動かして紙に書かせることは重要であると思います。実際のゼミでは、e ポートフォリオへの記事投稿とともに、ワークシートに手で書かせる作業もさせています。

- 多様な教員がいる場合「コメント力」のばらつきの問題は、研修などの方法で解消されているのでしょうか？

回答：教員間で、「コメント力」にばらつきがあることは否めません。FD でも、効果的なコメントの方法について議論したことがあります。これについては、報告の最後に示しましたように、今後の課題です。

- 各学年のゼミでの評価内容を、現時点における評価の割合と教員のコメント率をご指示ください。

回答：ポートフォリオの評価は、1～4年生のゼミにおいて、10～15%程度の評価割合になっています。評価の内容は、おおむね以下の通りです。①各学期当初において、重点目標となるベンチマークが明確になっているか。②重点目標に対応した「ふりかえり」ができているか。③重点目標に対応した証拠が蓄積されているか。ポートフォリオを評価するためのループリック（評価基準）の確立については、今後の課題です。なお、教員のコメント率については、現時点では明確な数字をもっていません。

- 平均して教員一人が何人の学生に対してポートフォリオを活用した指導を行っているのか？

回答：各教員が、1 学年 17～18 名の学生を担当しています。現在、教員一人あたりが 2 学年程度を担当していますので、常時、40 人弱の学生を指導していることになります。

- シラバスへのベンチマークの記入率は？（全科目のうち授業目標にベンチマークがきちんと書き込まれている科目の割合）

回答：100%です。

<全員（岩井先生）>

- 教員が e ポートフォリオ（コンピューター）を苦手意識なく利用できているか？

回答：教員の側にも、コンピュータ・リテラシーのばらつきがあることは否めませんが、高等教育研究開発センターおよびメディアサポート室がサポートに努めています。

- e ラーニングの参加率はどのくらいか？（本学では Web メール利用率の低さに悩んでおります。）

回答：本学では、WebClass（データパシフィック社）という学習管理システムを導入していますが、教員の利用率は 10%程度です。今後のさらなる普及が課題です。なお、Web メールについては利用率 100%です。

- 教員から強制がない中で、学生はどれくらい自発的に利用していますか？

回答：学生がどの程度自発的に e ポートフォリオを利用しているかについては、学生間でもばらつきがあります。しかし、各学年のゼミで、10～15%の評価割合を e ポートフォリオに当てているので、ほぼ 100%に近い学生が e ポートフォリオを作成しています。

- 「学生の自分なり」を何を基準にどのように定量化し、評価するのか？ 教員自身の評価は？

回答：ご質問の意味について、十分に理解しておらず、申し訳ありません。ただし、eポートフォリオは、もともと定量化をめざすものではないと理解しています。黒上先生のコメントにもありましたように、定量化できない部分をどう評価するのかが問題になります。これについては、ループリック（評価基準）の確立も含めて、今後の課題となります。教員自身の評価については、教員もeポートフォリオを作成しており、その内容が教員を評価する手段にもなります。

<岩井先生>

- 「KUIS ベンチマークシートのどれを伸ばすかを各講義でいくつか明示しておられるということ」でしょうか？

回答：各科目で伸ばしたいベンチマーク項目を2～3選び、シラバスに明記するようにしています。また、シラバスには、「学習目標・及び目標とするベンチマーク」という項目があります。

- 記事の共有化のコントロールは入力した学生自身もしくは教員、どなたがするのでしょうか？

回答：記事の共有するかについては、記事を投稿した本人が選択します。

- 正課外活動（スポーツ・文化）はどのように組み込まれている？

回答：授業等に科目についての成果だけではなく、正課外活動の成果についても、ポートフォリオに蓄積するように指導しています。

- 学生には書かせることも大事、紙ベースのポートフォリオも必要では？

回答：ご指摘の通り、自分の手を動かして紙に書かせることは重要であると思います。実際のゼミでは、eポートフォリオへの記事投稿とともに、ワークシートに手で書かせる作業もさせています。

- 多様な教員がいる場合「コメント力」のばらつきの問題は、研修などの方法で解消されているのでしょうか？

回答：教員間で、「コメント力」にばらつきがあることは否めません。FDでも、効果的なコメントの方法について議論したことがあります。これについては、報告の最後に示しましたように、今後の課題です。

- 各学年のゼミでの評価内容を、現時点における評価の割合と教員のコメント率をご指示ください。

回答：ポートフォリオの評価は、1～4年生のゼミにおいて、10～15%程度の評価割合になっています。評価の内容は、おおむね以下の通りです。①各学期当初において、重点目標となるベンチマークが明確になっているか。②重点目標に対応した「ふりかえり」ができているか。③重点目標に対応した証拠が蓄積されているか。ポートフォリオを評価するためのループリック（評価基準）の確立については、今後の課題です。なお、教員のコメント率については、現時点では明確な数字をもっていません。

- 平均して教員一人が何人の学生に対してポートフォリオを活用した指導を行っているのか？

回答：各教員が、1学年17～18名の学生を担当しています。現在、教員一人あたりが2学年程度を担当していますので、常時、40人弱の学生を指導していることになります。

- シラバスへのベンチマークの記入率は？（全科目のうち授業目標にベンチマークがきちんと書き込まれている科目の割合）

回答：100%です。

<全員>

- 教員が e ポートフォリオ（コンピューター）を苦手意識なく利用できているか？

回答：教員の側にも、コンピュータ・リテラシーのばらつきがあることは否めませんが、高等教育研究開発センターおよびメディアサポート室がサポートに努めています。

- e ラーニングの参加率はどのくらいか？（本学では Web メール利用率の低さに悩んでおります。）

回答：本学では、WebClass（データパシフィック社）という学習管理システムを導入していますが、教員の利用率は 10%程度です。今後のさらなる普及が課題です。なお、Web メールについては利用率 100%です。

- 教員から強制がない中で、学生はどれくらい自発的に利用していますか？

回答：学生がどの程度自発的に e ポートフォリオを利用しているかについては、学生間でもばらつきがあります。しかし、各学年のゼミで、10～15%の評価割合を e ポートフォリオに当てているので、ほぼ 100%に近い学生が e ポートフォリオを作成しています。

- 「学生の自分なり」を何を基準にどのように定量化し、評価するのか？ 教員自身の評価は？

回答：ご質問の意味について、十分に理解しておらず、申し訳ありません。ただし、e ポートフォリオは、もともと定量化をめざすものではないと理解しています。黒上先生のコメントにもありましたように、定量化できない部分をどう評価するのが問題になります。これについては、ルーブリック（評価基準）の確立も含めて、今後の課題となります。教員自身の評価については、教員も e ポートフォリオを作成しており、その内容が教員を評価する手段にもなります。